

虐待防止に関する指針

社会福祉法人 はまゆう会
特別養護老人ホーム はまゆう

虐待防止に関する指針

1、施設における虐待の防止に関する基本的な考え方

当施設では、高齢者虐待は人権侵害であり、犯罪行為という認識のもと、高齢者虐待防止法の理念に基づき、高齢者の尊厳の保持・人格の尊重を重視し、権利利益の擁護に資することを目的に、高齢者虐待の防止とともに高齢者虐待の早期発見・早期対応に努め、高齢者虐待に該当する次の行為のいずれも行いません。

- ① 身体的虐待：高齢者の身体に外傷が生じ、または生じる恐れのある暴行を加えること。
- ② 介護・世話の放棄・放任：高齢者を衰弱させるような著しい減食又は長時間の放置その他の高齢者を擁護すべき職務上の義務を著しく怠ること。
- ③ 心理的虐待：高齢者に対する著しい暴言又は、著しく拒絶的な対応その他の高齢者に著しい心理的外傷を与える言動を行うこと。
- ④ 性的虐待：高齢者にわいせつな行為をすること、又は高齢者をしてわいせつな行為をさせること。
- ⑤ 経済的虐待：高齢者の財産を不当に処分すること、その他当該高齢者から不当に財産上の利益を得ること。

2、虐待防止検討委員会その他施設内の組織に関する事項について

当施設では虐待発生防止に努める観点から「虐待防止検討委員会」を組成します。

なお、本委員会の運営責任者は当施設の施設長とし、虐待の防止に関する措置を適切に実施するための担当者(以下担当者)は、当該委員会の長とします。

委員会の構成メンバーは、施設長、事務長、生活相談員、介護主任、介護支援専門員、各部署リーダー、その他必要と認めるものとします。

- イ) 身体的拘束等適正化委員会や、関係する職種、取り扱う事項が相互に関係が深い場合にはほかの会議と一体的に行う場合があり、加えて当施設に併設して展開する事業又は、法人内別事業と連携して虐待防止検討委員会を開催する場合があります。
- ロ) 虐待防止検討委員会は3月に1回開催します。また、法人施設内での協議事項が生じた都度担当者が招集し、随時開催します。
- ハ) 虐待防止検討委員会の議題は担当者が定めます。具体的には次のような内容について協議するものとします。
 - ① 虐待防止検討委員会その他、施設内の組織に関すること。
 - ② 虐待の防止のための指針の整備に関すること。
 - ③ 虐待の防止のための職員研修の内容に関すること。
 - ④ 虐待等について、職員が相談・報告できる体制整備に関すること。
 - ⑤ 職員が虐待等を把握した場合に、市町村への通報が迅速かつ適切に行われるための方法に関すること。

- ⑥ 虐待等が発生した場合その発生原因等の分析から得られる再発の確実な防止策に関する
こと。
- ⑦ 再発の防止策を講じた際に、その効果についての評価に関すること。

3、虐待の防止のための職員研修に関する基本方針

①職員に対する虐待防止のための研修の内容は、虐待防止に関する基礎的内容等の適切な知識を普及・啓発するものであるとともに、本指針に基づき、虐待の防止を徹底します。

イ)具体的には次のプログラムにより実施します。

- ・高齢者虐待防止法の基本的考え方の理解
- ・高齢者権利擁護事業/成年後見制度の理解
- ・虐待の種類と発生リスクの事前理解
- ・早期発見・事実確認と報告等の手順
- ・発生した場合の改善策

ロ)実施は、年2回以上行います。」また新規採用時には必ず虐待防止のための研修を実施します。

ハ)研修の実施内容については、研修資料、実施概要、出席者等を記録し、5年間保存します。

4、虐待等が発生した場合の対応方法に関する基本方針

①虐待等が発生した場合には、速やかに市町村に報告するとともに、その要因の除去に努めます。客観的な事実確認の結果、虐待者が職員であったことが判明した場合には、役職位の如何を問わず、厳正に対処します。

②また、緊急性の高い事案の場合には、市町村及び警察等の協力を仰ぎ、被虐待者の権利と生命の保全を優先します。

5、虐待等が発生した場合の相談・報告体制に関する事項

①職員が他の職員による利用者への虐待を発見した場合、担当者に報告します。

虐待者が担当者本人であった場合は、他の上席者等に相談します。

②担当者は、苦情相談窓口を通じての相談や、上記職員等からの相談及び報告があった場合には、報告を行った者の権利が不当に侵害されないように細心の注意を払ったうえで、虐待等を行った当人に事実確認を行います。虐待者が担当者の場合は、他の上席者が担当者を代行します。また、必要に応じ、関係者から事情を確認します。これら確認の経緯は時系列で概要を整理します。

③事実確認の結果、虐待の事象が事実であることが確認された場合には、当人に対応の改善を求め、就業規則等に則り必要な措置を講じます。

④上記の対応を行ったにもかかわらず、善処されない場合や緊急性が高いと判断される場合は、市町村の窓口等外部機関に相談します。

⑤事実確認を行った内容や、虐待が発生した経緯等を踏まえ、虐待防止検討委員会において当該事案がなぜ発生したか検証し、原因の除去と再発防止策を作成し、職員に周知します。

⑥施設内で虐待等の発生後、その再発の危険が取り除かれ、再発が想定されない場合であっても、事実確認の概要及び再発防止策を併せて市町村に報告します。

⑦必要に応じ、関係機関等に対して説明し、報告を行います。

6、成年後見人制度の利用支援に関する事項

利用者本人又はご家族に対して、利用可能な成年後見制度について説明し、その求めに応じ、公的機関等の適切な窓口を案内する等の支援を行います。

7、虐待等に係る苦情解決方法に関する事項

- ①虐待等の苦情相談については、苦情受付担当者は、寄せられた内容について苦情解決責任者に報告します。当該責任者が虐待等を行った者である場合は、その上席者に相談します。
- ②苦情相談窓口寄せられた内容は、相談者の個人情報の取扱いに留意し、当該者に不利益が生じないよう、細心の注意を払います。
- ③対応の流れは、上述の<5、虐待等が発生した場合の相談・報告体制に関する事項>によるものとします。
- ④苦情相談窓口寄せられた内容は、相談者にその顛末と対応を報告します。

8、利用者等に対する当該指針の閲覧に関する事項

利用者、又その家族はいつでも本指針を閲覧することができます。また施設 HP において、いつでも閲覧が可能な状態とします。

9、その他虐待の防止の推進のために必要な事項

「3」に定める研修会のほか、社会福祉協議会や老人福祉施設協議会等により提供される虐待防止に関する研修会等には積極的に参加し、利用者の権利擁護とサービスの質を低下させないよう常に研鑽を図ります。

2021年 4月 1日改訂

2021年12月 1日改訂